

令和5年10月19日

# 医師会から発信する 在宅医療・介護連携

大阪市東淀川区医師会

副会長

岡部 登志男

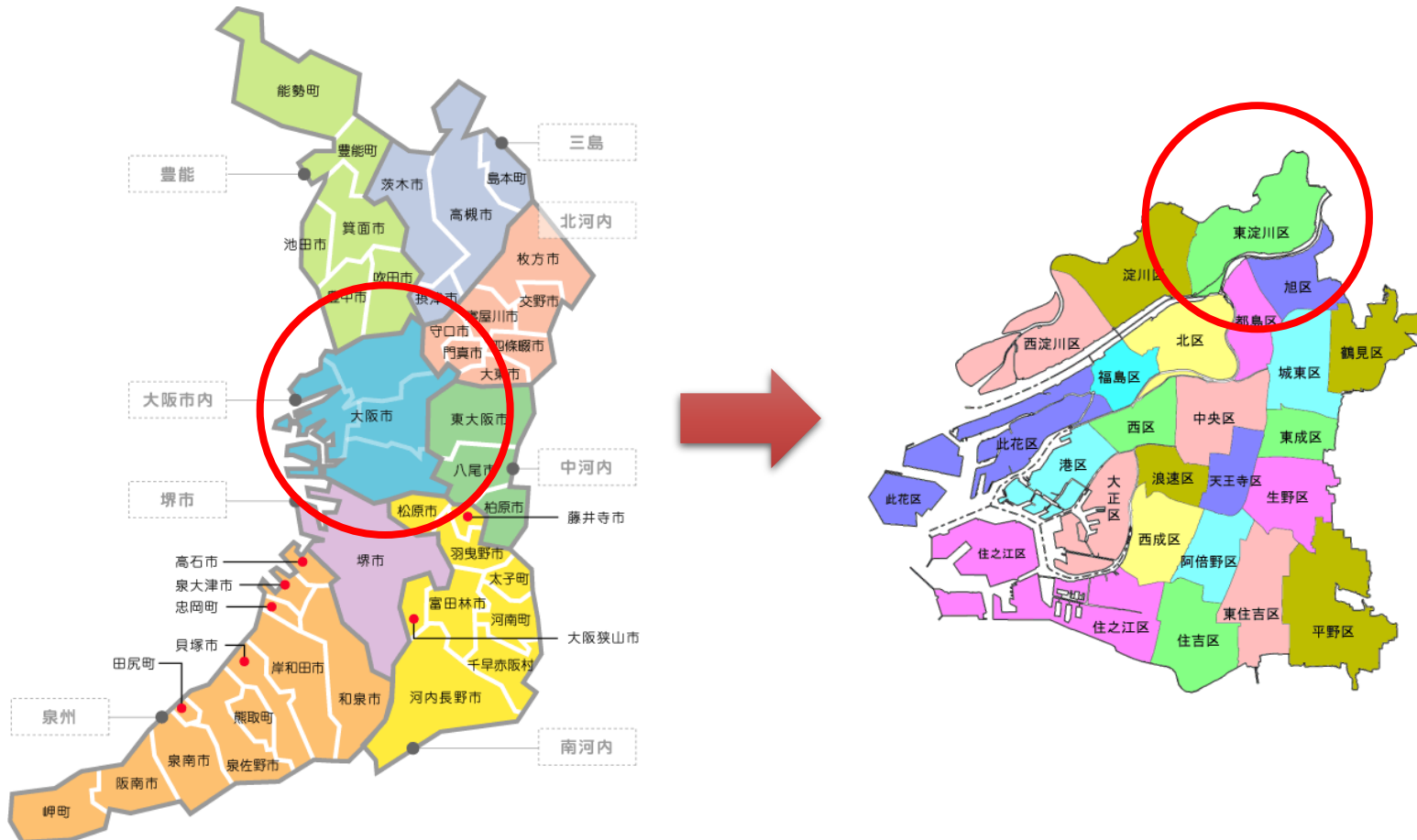
1. 東淀川区の概要
2. 大阪市東淀川区医師会の取り組み
3. 大阪市高齢者等在宅医療・介護連携に関する相談支援事業について  
(在宅医療・介護連携推進事業)
4. 地区医師会の役割について(私見)

# 1. 東淀川区の概要

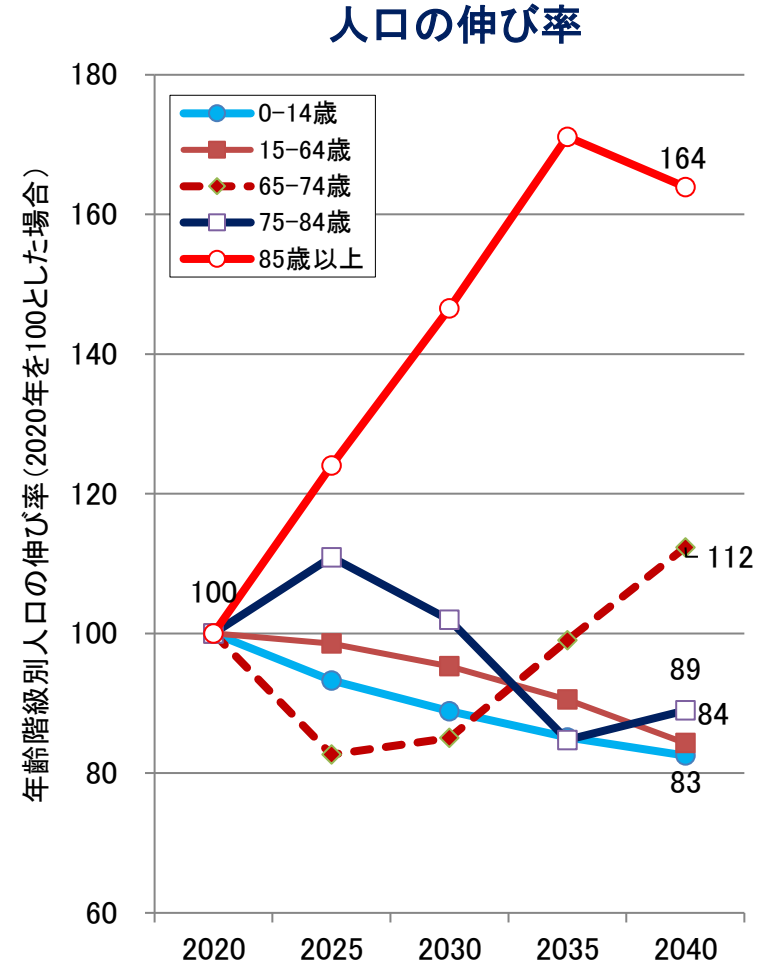
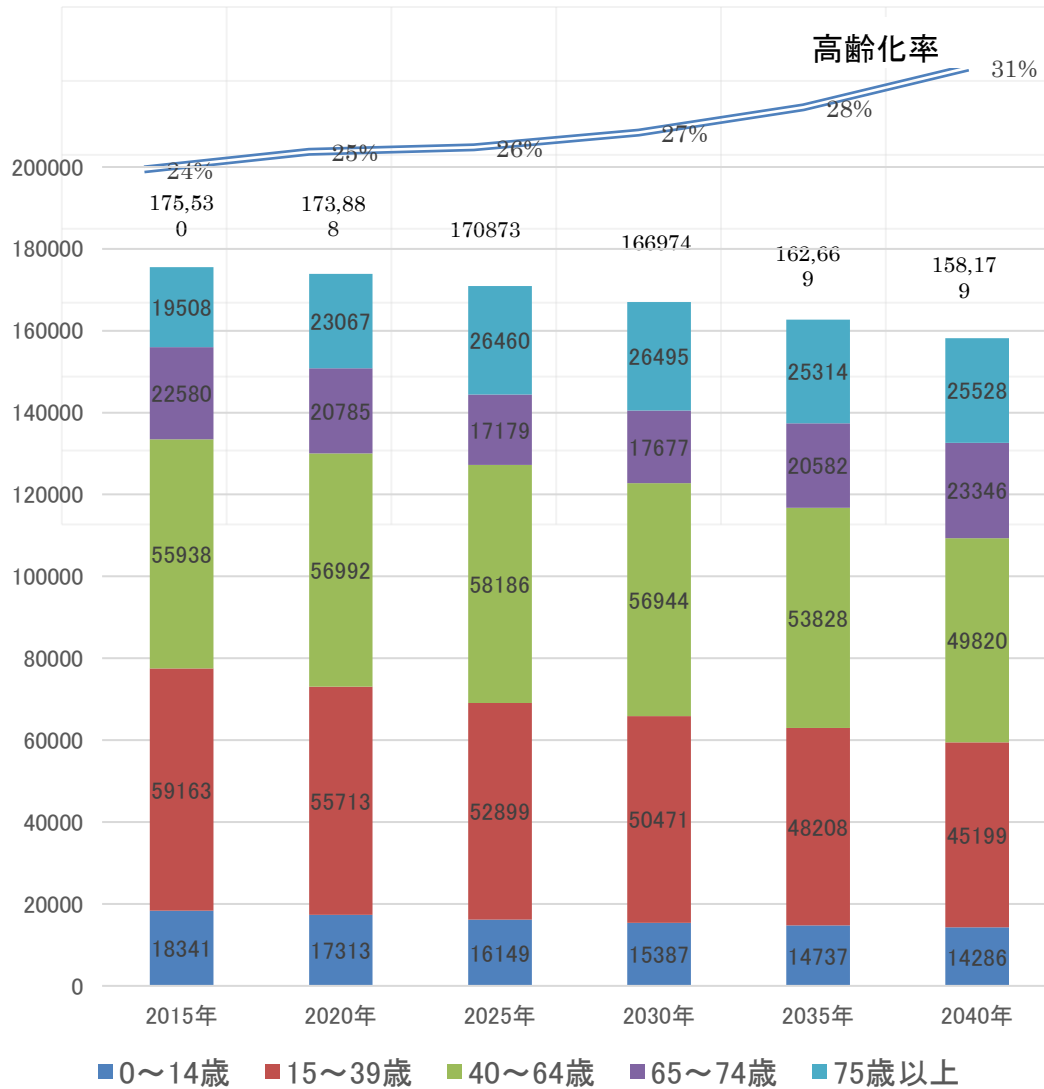
# 東淀川区の概要

人口 177,120人(大阪市内で3番目に多い)  
高齢者人口 44,049人  
高齢化率 24.9%(大阪市 25.5%)

2020年国勢調査より



# 東淀川区の将来推計人口



# 東淀川区の統計データ（大阪市24区中の順位）

項目		市内順位	出典	
人口総数	176,121人	3番目に多い	推計人口	令和5年8月1日現在
世帯数	101,908世帯	2番目に多い		
1世帯あたりの人員	1.75人	18番目に多い	国勢調査	令和2年
単独世帯率	58.3%	6番目に多い		
高齢者のいる一般世帯のうち単独世帯率	45.8%	4番目に多い		
高齢者人口(65歳以上)の割合	24.9%	14番目に多い	大阪市	令和5年8月1日現在
年少人口(15歳未満)の割合	8.9%	21番目に多い		
要支援・要介護認定者数総数	11,558人	4番目に多い	大阪市	令和3年3月末現在
認知症高齢者数	3,620人	3番目に多い		令和5年4月1日現在
身体障がい者手帳所持者数	8,620人	4番目に多い		令和3年3月末現在
療育手帳所持者数	2,197人	2番目に多い		
精神障がい者保健福祉手帳所持者数	3,439人	3番目に多い		
生活保護率	6.0%	6番目に多い		
平均寿命(男性)	79.1歳	19番目に高い	厚生労働省 生命表	令和2年
平均寿命(女性)	86.5歳	21番目に高い		
健康寿命(男性)	77.56歳	20番目に高い	大阪市	
健康寿命(女性)	82.95歳	17番目に高い		
死亡率	12.2%	13番目に高い		令和4年

- 1世帯あたり的人员が少ない
  - 独居高齢者(高齢者二人暮らし)が多い
- 社会的弱者が多い
  - 介護認定者
  - 認知症高齢者
  - 身体障がい者
  - 精神障がい者
  - 生活保護
- 平均寿命・健康寿命が短い＝健康状態がよくない

# 東淀川区の医療・介護施設（令和5年現在）

## 医療

・ 病院数	4か所
淀川キリスト教病院、淀川平成病院 成仁会病院、淀川若葉会病院	
一般病床数	829床
（回復期リハビリ病床76床）	
療養病床数	52床
地域医療支援病院	1か所
淀川キリスト教病院	
在宅療養支援病院	2か所
成仁会病院、淀川平成病院	
・ 診療所数	139か所
在宅療養支援診療所	25か所
・ 訪問看護ステーション	44か所
・ 訪問リハビリステーション	4か所
・ 歯科診療所	83か所
在宅療養支援歯科診療	17か所
・ 調剤薬局数	81か所
地域支援体制加算算定薬局	42か所

## 介護

・ 地域包括支援センター	4か所
・ 総合相談窓口（ランチ）	5か所
・ 介護老人福祉施設	11か所
・ 介護老人保健施設	4か所
・ グループホーム	17か所
・ 介護付き有料老人ホーム	10か所
・ 住宅型有料老人ホーム	17か所
・ サービス付き高齢者向け住宅	21か所
・ 看護小規模多機能型居宅介護	2か所
・ 小規模多機能型居宅介護	5か所
・ 訪問介護	110か所
・ 通所介護	70か所
・ 地域密着型通所介護施設	45か所
・ 認知対応型通所介護施設	2か所
・ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0か所



# 東淀川区における医療・介護の提供体制

	偏差値	全国と比べた判定
人口あたりの一般病床	48	平均
回復期病床	—	—
地域包括ケア病床	0	非常に少ない
療養病床	45	やや少ない
在宅療養支援病院	50	平均
人口あたりの診療所数	51	平均
在宅療養支援診療所	50	平均
総医師数	50	平均
病院医師数	50	平均
診療所医師数	50	平均

東淀川区では

- 回復期・慢性期を担う病床が少なく
- 高齢者住宅(特にサ高住)と
- 訪問介護サービスが多い

	偏差値	全国と比べた判定
総高齢者施設・住宅定員数	63	多い
介護保険施設定員数	50	平均
介護療養病床	0	非常に少ない
老健施設	50	平均
特別養護老人施設	52	平均
高齢者住宅定員数	70	非常に多い
グループホーム	52	平均
特定施設	65	多い
サ高住	74	非常に多い
居宅サービス		
訪問介護事業所数	77	非常に多い
訪問看護事業所数	60	多い
通所介護事業所数	54	やや多い
通所リハ事業所数	52	平均
訪問入浴事業所数	49	平均
短期入所事業所数	48	平均
居宅介護支援事業所数	61	多い
サービス利用者(75歳以上千人あたり)		
介護施設・高齢者住宅利用者数	55	やや多い
訪問看護利用者数	61	多い
介護職員数	61	多い
高齢者施設・住宅等に勤務	53	やや多い
在宅介護に勤務	82	非常に多い
介護サービスに従事する看護師数	64	多い
高齢者施設・住宅等に勤務	49	平均
訪問看護に従事	64	多い
療法士数	52	平均
介護支援専門員数	59	多い

## 2. 大阪市東淀川区医師会の 取り組み

# 大阪市東淀川区医師会のご紹介



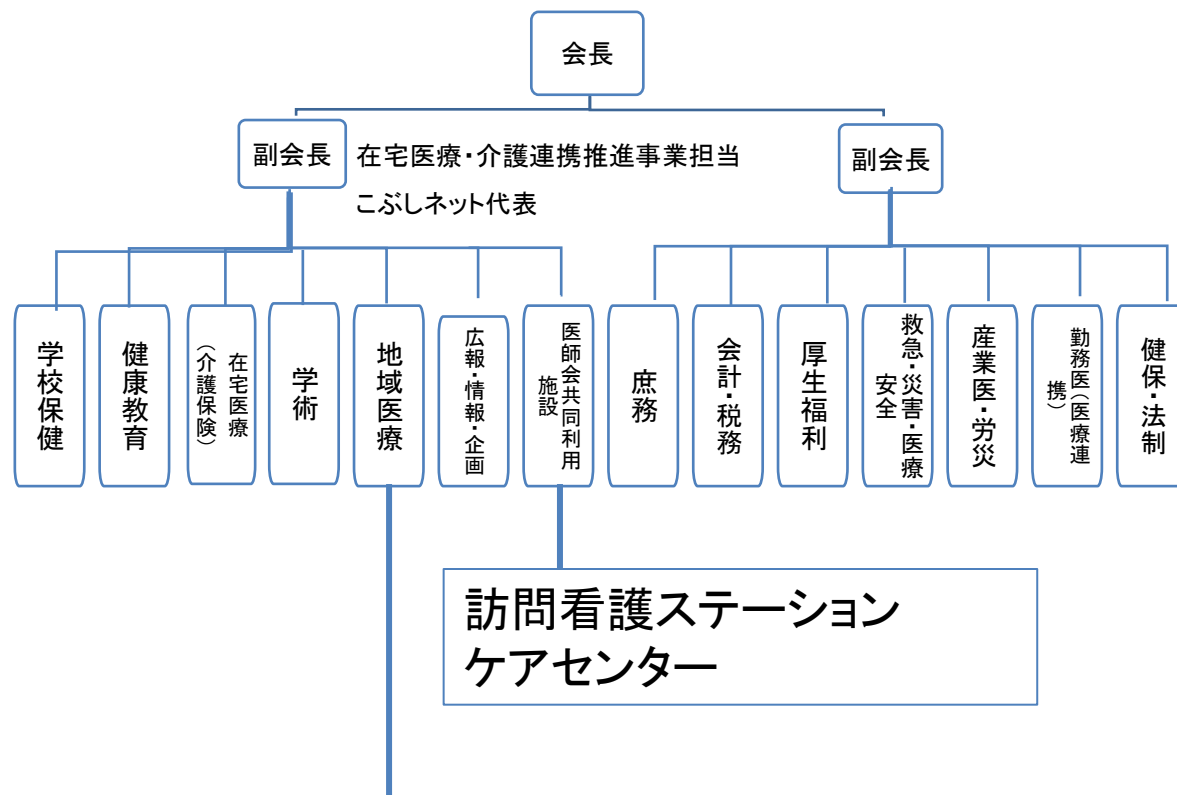
1975年設立

会長、副会長2名、理事19名

事務局職員4名

A会員／124名(平均年齢63.5歳)

B会員／196名



在宅医療・介護連携相談支援室

平成28年8月開設

人員:常勤1名・非常勤1名

職種:看護師

1. 平成20年頃からの**在宅医療関連事業**
2. 平成20年より始まった**認知症関連事業**
3. 平成25年に発足した「**こぶしネット**」**事務局の運営**

# 1. 在宅医療関連事業について

2008

・淀川キリスト教病院と東淀川区医師会の在宅医療に関する意見交換

2010

・医師会員に対する在宅医療に関するアンケート調査  
・東淀川区の在宅医療連携を考える会の発足

2011

・淀川キリスト教病院との在宅医療連携に関する取り決め  
・在宅医募集のメーリングリスト 在宅医療サポートチーム 医療材料の小分け販売

2012

・淀川キリスト教病院が厚労省在宅医療連携拠点事業を受託  
・東淀川区医師会が大阪府転退院調整・在宅医療円滑化ネットワーク事業を受託(1年目)

2013

・大阪府転退院調整・在宅医療円滑化ネットワーク事業(2年目)  
・こぶしネットの発足

2014

・大阪府在宅医療連携拠点支援事業  
・大阪府在宅医療推進事業(1年目)

2015

・大阪府在宅医療推進事業(2年目)

2016

・大阪府在宅医療推進事業(3年目)  
・大阪市高齢者等在宅医療・介護連携に関する相談支援事業(1年目)

2017

・大阪府在宅医療推進事業(4年目、最終年度)  
・大阪市高齢者等在宅医療・介護連携に関する相談支援事業(2年目) ・大阪府在宅医療移行支援事業(1年目)

2018

・大阪市高齢者等在宅医療・介護連携に関する相談支援事業(3年目)  
・大阪府在宅医療移行支援事業(2年目)

2023

・大阪市高齢者等在宅医療・介護連携に関する相談支援事業(7年目)  
・大阪府在宅医療移行支援事業(6年目)

## 2. 認知症関連事業について

2008

- ・認知症高齢者支援ネットワーク連絡会議(地域包括支援センター)
- ・認知症診療ネットワーク検討部会(東淀川区医師会)

2009

- ・認知症地域ケア多職種共同研修事業

2011

- ・認知症高齢者地域ケア推進強化事業

2012~

- ・認知症等高齢者支援地域連携事業

2013

- ・「かかりつけ医認知症相談マップ」の発刊

2014~

- ・認知症初期集中支援事業

2017

- ・認知症強化型地域包括支援センターモデル事業(地域包括支援センター)

2018

- ・「かかりつけ医認知症相談マップ」改訂版の発刊

# 3. こぶしネット（2013年発足）について

## 構成団体

- ・東淀川区医師会
- ・区内病院
- ・東淀川区歯科医師会
- ・東淀川区薬剤師会
- ・訪問看護ステーション連絡会
- ・理学療法士会

- ・地域包括支援センター
- ・居宅介護支援事業者
- ・介護施設
- ・障がい者団体協議会
- ・民生委員児童委員協議会
- ・訪問介護事業所
- ・通所介護事業所

- ・区役所（保健福祉センター・地域課）

顧問 東淀川区長  
東淀川区医師会長



## こぶしネットの目的

- 地域での医療・介護・福祉の連携のあり方を考える
- 各職種における技量の向上、人材育成をめざす
- 地域における社会資源の発掘・活用に取り組む
- 地域住民に対して、在宅医療・介護に関する啓発を行う
- 在宅医療連携における課題を検討し、高齢者や障がい者が住み慣れた地域で暮らすことができるようなまちづくりを区に提言する

## 毎月第4木曜日

- ・実行委員会14時～15時（メンバー80名）
- ・コアメンバー会議15時～16時（メンバー22名）





# ワーキンググループの活動内容

## 企画・学術

- 「在宅医療における多職種連携」に関するアンケート調査
- 「東淀川区の在宅医療連携を考える会」（年4回）の企画

## 連携ツール

認知症患者のための情報共有ツールと啓発にかかるパンフレット作成  
「誤嚥性肺炎の予防」パンフレット作成  
ICTの活用を検討（Medical Care Station）

## 地域住民への普及啓発

- 区民向けの啓発講演会（地域学習会、市民公開講座）
- 在宅医療に関するパンフレット作成 『あなたの家にかえろう～ご存知ですか？在宅医療～』

## ACP

- 住民へのACP普及活動

## 社会資源

- 各施設・事業所の情報を集約
- こぶしネットのHP作成と情報検索システム構築

## 災害対策

- 大災害時における多職種連携の活動について検討
- 応急処置や予防処置など地域への啓発、区役所と協働し避難訓練の実施

## 感染症対策

- 新型コロナウイルス感染症等の感染予防対策の普及・啓発



# 顔の見える関係づくり

## 多職種連携構築の過程

- 東淀川区で多職種連携が取れたのは、医師会、行政、基幹病院がうまくタッグを組めたから。
- 東淀川区医師会では、地域医療支援病院である淀川キリスト教病院との間で在宅医療に関する協議を行っていた。
- また、東淀川区医師会では、認知症関連事業に早期に取り組んでおり、行政や地域包括支援センターとの関係も良好であった。
- 平成24年度に東淀川区医師会では大阪府転退院調整・在宅医療円滑化ネットワーク事業を受託、淀川キリスト教病院では厚生労働省在宅医療連携拠点事業を受託し、このときに行われた多職種連携会議に、医師会や行政、地域包括支援センターの声かけもあり、医療・介護や地域の関係者が参加し、この会議が「こぶしネット」に発展していった。特に区長の全面的な協力を得たことが大きく、区内の多くの職種の参加につながった。
- 「こぶしネット」代表と事務局は医師会が担っており、多職種連携をうまく運営するには、医師会の強いリーダーシップと行政・基幹病院のサポートが必要。



# 3. 大阪市高齢者等在宅医療・ 介護連携に関する相談支援事業 (在宅医療・介護連携推進事業) について

## 市町村が行う在宅医療・介護連携推進事業の8項目

- (ア) 地域の医療・介護の資源の把握
- (イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- (ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進
- (エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
- (オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
- (カ) 医療・介護関係者の研修
- (キ) 地域住民への普及啓発
- (ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

- 地域の各方面への周知と調整（医師会）
  - 地域包括支援センター
  - こぶしネット
  - 区役所 etc
- 大阪市のコーディネーター支援
  - コーディネーター手引き書
    - コーディネーターの活動指針が具体的に書かれている
  - コーディネーター研修会
    - コーディネーターのスキルアップ
  - コーディネーター連絡会
    - 各区のコーディネーター同士の連携

## 平成28年8月

- ・在宅医療・介護連携相談支援室 開設
- ・人員：常勤1名 非常勤1名
- ・職種：看護師

## 平成28年度 取り組み内容

- ・相談支援室パンフレット作成
- ・ホームページの開設
- ・東淀川区における医療・介護の地域資源の把握
- ・関係機関への訪問
- ・在宅医療・介護連携相談実務者会議（区役所担当者・医師会）
- ・介護職のための在宅医療連携研修会（歯科医師会との共催）
- ・地域医療連携を考える会（区内4つの病院、近隣2つの病院）
  - ↳ 次年度病院勤務医へのアンケート調査実施につながる



**連携に関するアンケート調査**：病院（勤務医・地域連携室）・医師会・薬剤師会

- ・歯科医師会・訪問看護ステーション・地域包括
- ・居宅介護支援事業者・訪問介護・介護施設
- ・入居系介護施設等

**多職種連携のための研修会（お互いの職種に対する理解）**

- ・在宅医療連携研修会（年3回）
- ・歯科医師会・医師会との合同研修会
- ・居宅介護支援事業所・医師会との合同研修会
- ・居宅介護支援事業者・訪問看護ステーションとの合同研修会
- ・介護職のための在宅医療連携研修会

**連携体制の構築に向けた会議・意見交換会**

- ・在宅医療病診連携協議会
- ・地域医療連携を考える会（病院地域連携室・訪問看護）
- ・**居住系施設との意見交換会**
- ・保健福祉センター保健師と訪問看護師との交流会
- ・クリニックや施設で働く看護師と訪問看護師との交流会

**区民への啓発活動 広報誌への掲載**

# 平成29年度 東淀川区在宅医療・介護連携推進事業の取り組み

## 東淀川区の多職種連携の輪に入っていなかった団体

居住系施設: サービス付き高齢者向け住宅

有料老人ホーム

平成29年3月から10施設とグループホーム連絡会代表とで話し合いを開始(毎月1回)  
話し合いの中で出てきた意見: 他の施設の情報が入ってこない

東淀川区の多職種連携を知らない

介護の質を上げたいがそうしたらいいか

悩みや課題を共有する場ない



## 平成30年 東淀川区「住まいとケアの連絡会」住まいるネット誕生

### 東淀川区在宅医療連携研修会

#### テーマ

#### 「介護施設ってどんなところ」

第3回 東淀川区在宅医療連携研修会	平成31年1月21日(水)
テーマ	
「介護施設ってどんなところ」	
司会	東淀川区医師会 理事 前納 純二
挨拶	東淀川区医師会 会長 幸田 龍吾
●介護施設の種類について	東淀川 ケアと住まいの連絡会代表 中西 博男
●事例紹介 寸劇	東淀川 ケアと住まいの連絡会 会員
●講演1 認知症対応型共同生活介護について	グループホーム あすへる豊新 下村 博元
●講演2 小規模多機能居宅介護について	パナソニックエイジソリューションズセンター大阪南支 橋谷 理美
●講演3 サービス付き高齢者向け住宅について	そんぼの家#上野庄東 田中 輝友
総評	東淀川区医師会 理事 岡部 豊治男



在宅医療・介護連携に関するアンケート調査：医療・介護従事者  
訪問看護ステーション  
医師会会員へのアンケート

## 多職種連携のための研修会(お互いの職種に対する理解)

- ・在宅医療連携研修会(年3回)
- ・歯科医師会・医師会との合同研修会
- ・居宅介護支援事業所・医師会との合同研修会
- ・居宅介護支援事業者・訪問看護ステーションとの合同研修会
- ・居宅介護支援事業所と訪問看護師ステーションとの交流会
- ・介護職のための在宅医療連携研修会
- ・病院地域連携室と訪問看護師との交流会

## 連携体制の構築に向けた会議・意見交換会

- ・在宅医療病診連携協議会
- ・地域医療連携を考える会(病院地域連携室・訪問看護)
- ・入居系介護施設との意見交換会
- ・保健福祉センター保健師と訪問看護師との交流会
- ・クリニックや施設で働く看護師と訪問看護師との交流会

## 区民啓発

- ・広報誌への掲載

## 訪問看護師と保健福祉センター保健師との橋渡し

- ・小児から高齢者・障がい者等へのケアを提供する訪問看護師と地域全体の健康を守る保健福祉センター保健師との連携が必要

平成30年度から情報交換会、交流会・事例検討会を毎年企画し開催

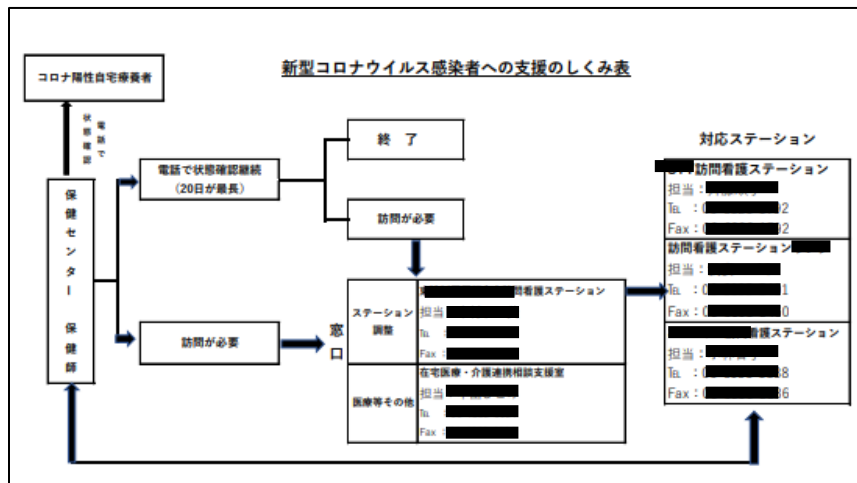
### 顔の見える関係づくりの構築

- ・平成30年度 情報交換会：「訪問看護の情報提供書についての意見交換」  
交流会：「お互いの役割について知ろう」
- ・令和元年度 「地域住民の健康を守り、地域医療を支える担い手として、  
今我々が果たすべき役割とは」
- ・令和2年度 中止
- ・令和3年度 「コロナウイルス陽性自宅療養者についての情報交換会」4回開催
- ・令和4年度 「第7波到来 今後の連携のとり方について」
- ・令和5年度 「災害時の連携について」

➡ 「災害時における人工呼吸器等在宅ケアを考える会」の発足 27

## 訪問看護師と保健福祉センター保健師との連携

### コロナ自宅療養者への支援のしくみ



### 感染症対策DVD作成



### 「災害時における人工呼吸器等在宅ケアを考える会」訪問看護師が講師(R5.9)



# 平成31年・令和元年度 東淀川区在宅医療・介護連携推進事業の取り組み

## 在宅医療・介護連携に関するアンケート調査

- ・各団体における医療・介護連携課題と対応策に関するアンケート調査
- ・医師会会員へのアンケート調査

## 多職種連携のための研修会(お互いの職種に対する理解)

- ・在宅医療連携研修会(年3回)
- ・歯科医師会・医師会との合同研修会
- ・居宅介護支援事業所・医師会との合同研修会
- ・居宅介護支援事業者・訪問看護ステーションとの合同研修会
- ・介護職のための在宅医療連携研修会  
介護職のための在宅医療連携研修会

## 連携体制の構築に向けた会議・意見交換会

- ・保健福祉センター保健師と訪問看護師との交流会
- ・24区病院窓口一覧作成(24区コーディネーターで作成)

## 区民啓発

- ・介護経験者(区民)と専門職の対話研修会
- ・広報誌への掲載

# 令和2年度 東淀川区在宅医療・介護連携推進事業の取り組み

コロナ禍 医療と介護の連携が途切れないように取組んだ

- ・Zoom体験会を開催
- ・これまで継続してきた会議・研修会をZoomで開催
- ・介護職の不安や疲弊を軽減するための取組み

介護職対象研修会

- ・第1回「かかりつけ医に聞く 新型コロナ対策～基本的知識とQ&A」
- ・第2回「コロナ禍における在宅看取りを考える」

在宅医療連携を考える会(こぶしネット)

- ・「ヘルパーステーションからみた新型コロナウイルス感染症対策の提案書」  
「訪問看護師からお伝えしたいこと」

居宅介護支援事業所・医師会合同研修会

- ・「新型コロナウイルス感染症の最近の話題とインフルエンザシーズンに向けての取組み」  
「区内入院医療機関MSWより各病院の取組みと対応について」

コーディネーター通信発行(3回)

在宅医療・介護連携に関するアンケート調査

- ・新型コロナウイルス感染症に関するアンケート調査
- ・医療機関における衛生用品に関する緊急アンケート調査
- ・医師会会員へのアンケート調査

# 令和3年度 東淀川区在宅医療・介護連携推進事業の取り組み

## 在宅医療・介護連携に関するアンケート調査

- ・「入院時情報提供用紙」に関するアンケート調査

## 多職種連携のための研修会(お互いの職種に対する理解)

- ・在宅医療連携研修会(年3回)
- ・居宅介護支援事業所・医師会との合同研修会(中止)
- ・在宅医療におけるPPE実践研修会
- ・精神疾患のケアを考える研修会
- ・在宅医療における多職種連携研修会

## 連携体制の構築に向けた会議・意見交換会

- ・保健福祉センター保健師と訪問看護師との交流会(3回)
- ・24区病院窓口一覧更新
- ・地域支援事業関係者会議(3回)
- ・コーディネーター通信発行(3回)

## 区民啓発

- ・広報誌への掲載
- ・わくわく!いきいき百歳体操サポート講演会



## 介護職対象研修会

- ・在宅医療におけるPPE実践研修会 5回開催
- ・在宅医療における多職種研修会  
「介護職によるチームケアと多職種によるチームケア」



# 令和4年度 東淀川区在宅医療・介護連携推進事業の取り組み

## 在宅医療・介護連携に関するアンケート調査

- ・「ケアプラン終了者」に関するアンケート調査
- ・「認知症」に関するアンケート調査(連合振興町会長・町会長対象)

## 多職種連携のための研修会(お互いの職種に対する理解)

- ・在宅医療連携研修会(年4回)
- ・居宅介護支援事業所・医師会との合同研修会
- ・介護職のための在宅医療連携研修会

## 連携体制の構築に向けた会議・意見交換会

- ・訪問介護事業所連絡会との研修会「サ責の会」(4回)
- ・保健福祉センター保健師と訪問看護師との交流会(2回)
- ・24区病院窓口一覧更新
- ・地域支援事業関係者会議(5回)
- ・感染予防対策ビデオ作成
- ・「ひだまり事例集」作成
- ・コーディネーター通信発行(3回)

## 区民啓発

- ・地域ACP講演会
- ・なにわ元気塾16地域においてACP啓発(こぶしネット)
- ・広報誌への掲載
- ・わくわく!いきいき百歳体操サポート講演会(5回)

## 訪問介護事業者連絡会からの意見

ヘルパーが一番利用者の近くにいるにもかかわらず、医療の情報が伝わらない、自分が気づいたことや心配が、ケアマネジャー経由でしか伝わらない。

## 「サ責の会」

主催：訪問介護事業所連絡会、東淀川区医師会在宅医療・介護連携相談支援室 協力：南西部地域包括支援センター

### 介護職対象研修会 「サ責の会」

サービス提供責任者（以下、サ責）の業務は多岐にわたっています。  
コロナ禍でのサービス提供は、これまで以上に業務負担が大きかったのではないのでしょうか。  
サ責同士、コロナ禍の現状を共有し今後の業務・連携について考えたいと思います。

**日時** 令和4年9月21日（水）17:00～18:00

**場所** 南西部地域包括支援センター  
(東中島3-14-24 電話6326-4440)

**演題** 1. 「サ責に求められる役割とリーダーシップについて」  
そんばの家s淡路駅前 支配人 圓藤 香津子

2. 情報交換

---

下記に記載頂き、FAXにて**9月19日(月)**までにお申し込みください。  
「介護職対象研修会・サ責の会」参加します。

**FAX:06-4862-6134**

事業所名: \_\_\_\_\_ 氏名: \_\_\_\_\_  
氏名: \_\_\_\_\_

■申込・連絡先 東淀川区医師会 在宅医療・介護連携相談支援室 TEL:06-4862-6124 FAX:06-4862-6134

- ・第1回 9月21日（水）南西部地域包括支援センター圏域
- ・第2回 10月19日（水）東淀川区地域包括支援センター圏域
- ・第3回 12月21日（水）中部地域包括支援センター圏域
- ・第4回 R5年2月20日（月）北部地域包括支援センター圏域



## 在宅医療・介護連携相談支援室の現状と課題

- 在宅医療・介護連携相談支援室がこぶしネットの事務局も担うようになり、現在は東淀川区の医療・介護連携の中心的な役割を担うようになっている。
- 多職種連携の協議の中で出てきた課題に対して取り組みを行っているが、必ずしもPDCAサイクルに沿って行っているわけではない。
- 既存の開業医の高齢化が進む中、新規開業医は自分の専門領域に特化する傾向があり、在宅療養支援診療所がなかなか増えない。
- 職域の団体に入らず、連携の輪の中に入っていない事業所との連携が難しい。

# 4. 地区医師会の役割について (私見)

## 地区医師会が地域において果たすべき役割

- 地区医師会が地域に対して果たすべき役割は地域の住民の健康を守ること。
- 高齢者や障害者に対しては、その人たちの生活を医療面から支えることが必要であり、医療だけ行えばよいというものではない。
- 介護・福祉・保健・行政などと連携をしながら住民の生活を支援する必要がある。
- 地区医師会は地域包括ケアシステム・地域医療構想に基づく地域に必要な医療提供体制の構築や、医療以外の介護・福祉・保健・行政などとの連携に積極的に関与することが望まれる。

# 在宅医療・介護連携には医師会の協力が不可欠

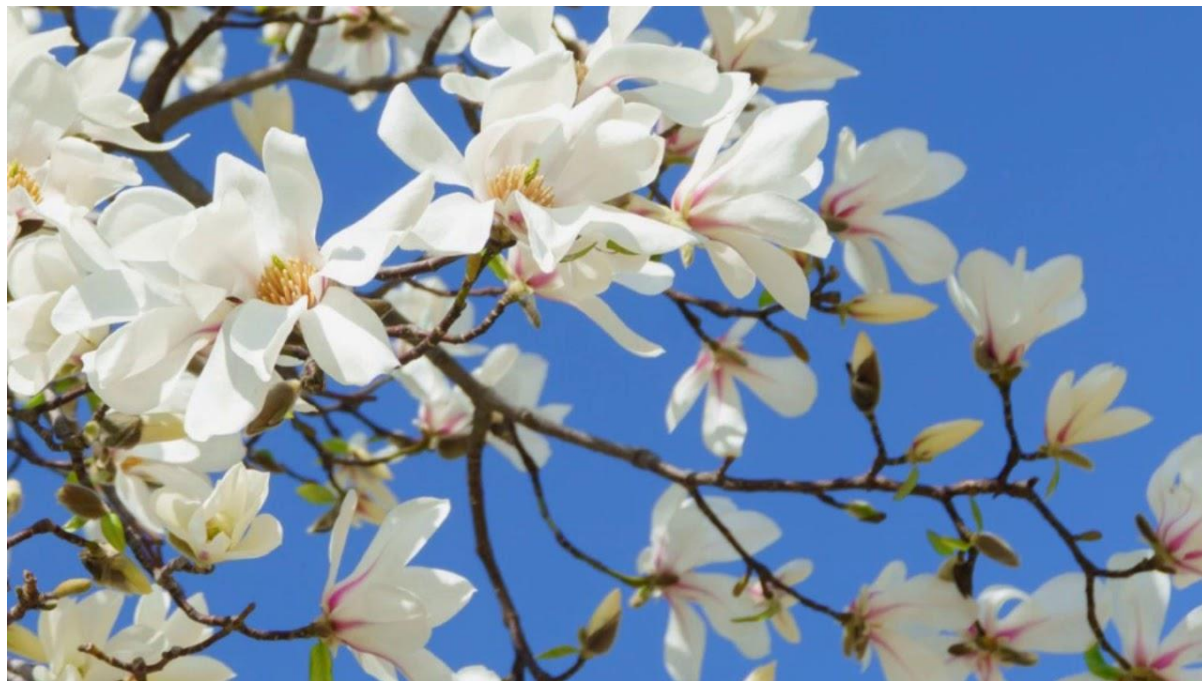
- 地区医師会ではこれまで病診連携、診診連携、医・歯・薬連携や在宅医療を推進してきた。
- 医療と介護の連携に関しても医療を代表する団体である医師会を抜きにして行うことはできない。
- 医師会が医介連携に積極的でリーダーシップをとり、介護側と対等に協調連携すれば「連携を担う拠点」となりうる。
- 「連携を担う拠点」が行う業務は在宅医療・介護連携推進事業でコーディネーターが行う内容と重なるので、「連携を担う拠点」はコーディネーターと協調連携しながら、活動を進めていくことが重要である。

## 都道府県、市町村担当者の皆様に

- この事業の目的は地域住民の生活を守るために医療・介護・行政などの専門職がどのように連携すればよいのかを検討することにあります。
- そのためには専門職同士が顔の見える関係を築き、お互いの職務を理解したうえで協議する必要があります。
- 医療・介護連携に正解はなく、手探りの状況で進めている状態で、これまでいろいろな部署を経験している担当の方の視点を変えた意見が貴重なものとなってきますので、積極的かつ前向きな発言を期待しております。
- 医師会等の各団体への連絡や調整もコーディネーターを介することによってスムーズに運びます。
- この事業を進めて行くには、担当者の熱意・熱量が重要と考えています。



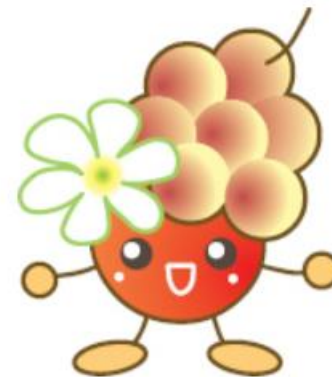
ご清聴ありがとうございました。



東淀川区の花「こぶし」



東淀川区の花「こぶし」の  
デザインマーク



東淀川区のキャラクター  
「こぶしのみりちゃん」